

ダーレックス スーパー 30F

JIS A 6204 流動化剤 標準形 (I 種)

はじめに

スーパー 30F は、JIS A 6204 (コンクリート用化学 混和剤) に適合するポリカルボン酸系の流動化剤 標準形 I 種です。

近年、ポリカルボン酸系を主成分とする AE 減水剤 や高性能 AE 減水剤がコンクリート用化学混和剤として多く使用されています。

ポリカルボン酸系の化学混和剤を用いたベースコンクリートの流動化に対して、従来のナフタレン系やメラミン系を主成分とする流動化剤は一般的に相性が悪く、所要のスランプが得られない場合があります。このようなベースコンクリートへ対応すべく、スーパー 30F は、特殊ポリカルボン酸系化合物を主成分として開発された流動化剤です。

主成分・物性

| | |
|-------------------------|---------------|
| 主成分 | 特殊ポリカルボン酸系化合物 |
| 外観 | 褐色液状 |
| 密度 (g/cm ³) | 1.010-1.040 |
| 全アルカリ量 (%) | 0.3 |
| 塩化物イオン量 (%) | 0.01 |

☒ 全アルカリ量および塩化物イオン量は測定値例です。

使用方法

- スーパー 30F は原液で使用し、ベースコンクリートに使用されている化学混和剤の主成分によるスランプ 1 cm 増大に対する使用量の目安は、以下の通りです。
- ポリカルボン酸系化学混和剤の場合、スランプ 1 cm 増大に対して、ベースコンクリートの単位セメント量 (結合材) の 0.04 ☒ 0.08% (質量) です。
- ポリカルボン酸系化学混和剤以外 (主に、リグニン系化学混和剤) の場合、スランプ 1 cm 増大に対して、ベースコンクリートの単位セメント量 (結合材量) の 0.09 ☒ 0.15% (質量) です。
- スーパー 30F の使用量は、使用材料、配 (調) 合、環境温度やミキサの種類により増減する場合があります。コンクリート温度によるスーパー 30F の使用量の増減は、温度 20°C における所要量に対し、温度 10°C では約 1 割減、温度 30°C では約 1 割増を目安に、目標のスランプが得られるように、あらかじめ試し練りによって定めてください。



- スーパー 30F は、現場にてコンクリート打設直前に添加後、60 秒 ☒ 90 秒高速・かくはんを行い、均一に流動化して下さい。また、現場の諸事情などで高速かくはんが難しい場合には、中速回転で 120☒180 秒のかくはんを行ってください。

使用上の注意事項

- 雨水や異物が入らないように、また、凍結しないように保管してください。もし、凍結した場合には、徐々に温め、融解・攪拌後 ご使用ください。
- 取扱いに際しては、ゴム手袋や保護メガネなどの保護具を着用してください。
- 皮膚に付いた場合には、速やかに上水道水で十分洗い流してください。眼に入った場合は、眼をこすらず直ぐに上水道水で十分洗眼した後、医師の診断を受けてください。
- 飲み込んだ場合は直ぐに吐かせ、多量の飲料水を飲ませた後、さらに吐かせ、医師の診断を受けてください。
- 廃棄する場合は、産業廃棄物処理業者に処理を委託してください。
- 詳細な情報が必要な場合は、弊社の製品の安全データシートをご参照ください。

JIS A 6204 による試験結果例

| 項目 | JIS A 6204 流動化剤 標準形 試験結果 | | | |
|--|--------------------------|-----------|-----|----|
| | 規格値 | 試験値 | 評価 | |
| ブリーディング量の差 (cm ³ /cm ²) | 0.1 以下 | 0.02 | 適合 | |
| 凝結時間の差 (分) | 始発 | -60 ~ +90 | +15 | 適合 |
| | 終結 | -60 ~ +90 | +25 | 適合 |
| 圧縮強度比 (%) | 材齢 7日 | 90 以上 | 101 | 適合 |
| | 材齢 28日 | 90 以上 | 101 | 適合 |
| 長さ変化比 (%) | 120 以下 | 101 | 適合 | |
| 凍結融解に対する抵抗性 (相対動弾性係数 %) | | 60 以上 | 93 | 適合 |
| | | | | 適合 |
| 経時変化量 | スランプ (cm) | 4.0 以下 | 1.5 | 適合 |
| | 空気量 (%) | ±1.0 以内 | 0.2 | 適合 |

使用材料 セメント；普通ポルトランドセメント 3 種等量，細骨材；陸砂，粗骨材；砕石 2005 スーパー 30F 使用量: C×0.75%

gcpat.jp | 日本の顧客サービス : 81 3 5226 0231

GCPケミカルズ株式会社

東京事務所 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋1丁目8番10号 クリエイトビル6階 Tel: 03 (5226) 0231 Fax: 03 (3239) 2251

技術部 〒243-0807 神奈川県厚木市金田100番地 Tel: 046 (225) 8877 Fax: 046 (221) 7214

弊社は、本情報がお役に立つことを願っております。本書に記載されている情報は正当および正確とみなされるデータおよび情報に基づいており、使用者の考察、調査、および検証に役立てていただくために提供するもので、弊社は結果が得られることを保証するものではありません。弊社が提供するすべての商品に適用される販売条件と合わせてすべての記載事項、推奨、または提案事項をよくお読みください。記載事項、推奨、または提案事項はいかなる特許、著作権、またはその他の第三者の権利を侵害するような使用を意図するものではありません。

GCP Applied Technologies Inc., 米国 02140 マサチューセッツ州ケンブリッジ ホイットモア通り 62

© Copyright 2017 GCP Applied Technologies, Inc. All rights reserved. | Printed in Japan | 02/17 | 250-Super-29

この文書は、下記の最終更新日現在のものであり、日本でのみ有効です。使用時に最新の製品情報を提供するには、以下のURLで現在入手可能な情報を常に参照することが重要です。Contractor Manuals、Technical Bulletins、Detail Drawings、詳細勧告などの追加資料や関連資料は、www.gcpat.jpでも入手できます。他のウェブサイトにある情報は、最新のものではなく、あなたの所在地の条件に該当しない可能性があり、その内容に関する一切の責任を負いません。競合が発生した場合、または詳細情報が必要な場合は、GCPカスタマーサービスにお問い合わせください。

Last Updated: 2022-11-18

gcpat.jp/solutions/products/darlex-super-30f